

新年の「あいわっ



対馬市長

財部 能成



新年明けましておめでとうございます。市民の皆様

には、ご健勝にて初春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。皆様には日ごろから市政に対し深いご理解とご支援、ご協力を賜り心から厚く御礼申し上げます。

旧年中も皆様には「対馬丸」の行く末に安心感を与えるまでには至らず、大変ご心配をおかけしたとお察し申し上げます。

昨年も日本経済全体が世界の経済と連動していると感じた1年間でした。特に下半期はアメリカの国内雇用情勢改善を意図したドル安攻勢の前に、世界各国経済は悲鳴をあげ続ける通

貨競争に突入した半年間でした。

株式市場を意図的に操作し資金調達する仕組みは終焉を迎え、今こそ過去の反省に立ち本来の姿に戻ろうとしています。汗かき知恵を搾り出し苦闘するところや、次代を担うであろう確かな技術力のあるところに

資金が流れ込む経済へと揺り戻しが興るうとしています。それも資源浪費型ではなく資源循環型の産業政策

の方向を確かなものとする技術に対してなのです。改めて、「私たち対馬にとって資源循環に対応した「資源」とは何なのか？」今後

民皆様の力をお借りしながら放置したままの資源があるはずだと考え、市民総出

の「資源探しの旅」に出ていただきました。そのために地域・地区単位で動き出しを始めてもらいました。温度差はあるものの動き始めた地域も現れました。

ところで、「パンドラの箱」には実は「希望」が入っているのです。私達は旧弊の壁の前に立ち止り、壁の高さと厚みに心と足はす

くみがちですが、「開けてはならない箱」という伝聞や慣習を前面に押し立てることで自分自身の行動をあえて制約し、旧弊・旧体制の中で楽に生き抜こうとしていました。しかし、箱の

中に希望の宝が転がっているということになれば話は違ってくると思います。勇気を振り絞り、また期待に胸震わせながら箱を開けることでしよう。今こそ、私たちは前に動き出しましょう。

昨年は対馬にとって光明が微かに差し込む年でありました。生物多様性条約締約国会議(COP10)で対馬にとって大切な方針が確認され、「2020年までに海域の10%を海洋保護区にする」と決定したので

です。このことは長年大中巻き網漁や底引き網漁で悩まされてきた対馬の漁業にとって画期的な出来事につながっていきます。また、本市が

昨年1年間しつかり国に訴えてきたことがあの名古屋の場で反映された胸をなで下ろしました。そのような中、漁業者は対馬の漁業

の未来予想図を思い描き、確たるものとするため数千人で資源管理型漁業の方向性を真剣に模索され始めています。

また、「環境実践モデル都市」の長崎県第1号の選

定を受けましたので、県の支援を仰ぎながら「モデル都市」にふさわしい施策展開を積極的に前進させます。併せて対馬を「ユネスコ・エコパーク」登録の可能性を追求する予定です。この島で完結できるものは完結すべきであり、出来るだけ自己完結型の島を志向していく時が来たと思います。

まさに「誇り高き孤高の島」を念頭に置き、私達は気概をもって実現に向けて取り組まねばなりません。

さらに、23年度からは第1次産品の物流を改善しつつ対馬の売り込みやブランド化を図るため新規施策を起ち上げていきます。

国の税収が減っていく中、公共事業費の伸びは見込めません。しかし、対馬は未だ「魏志倭人伝」の記述どおり「禽鹿(きんろく)の径(みち)」とは申しませ

んが、道路事情は劣悪で国県道も未改良区間が相当な距離残っています。国に現状をつぶさに理解して頂き、早期完成に向け努力は惜しまない思いです。

そのような国の事情を考慮すると量的に対応できる水産物と林産物は海外をも視野に入れた貿易の時代を対馬に導入していきたく考えています。

国境離島の重要性がクロージングアップされましたが、都会の人達に対馬の現状をつぶさに見て理解してもらうためにも「国境観光」という括りの旅行商品を旅行社に用意してもらい、国境離島新法制定に向けた応援団を日本中につくることが肝要と考えます。

最後に、これからのキーワードは「経済」ではなく「人間らしさ」なのではないでしょうか。心は「縄文時代」に戻りましょう。対馬らしい「縄文人」になりましょう。新しい地域力創造のために「対馬らしい市民協働による地域元気主義」が市民の皆様へ根付く年になることを祈念し、また、本年が皆様にとりまして素晴らしい1年となりますようご祈念申し上げます、新年の挨拶いたします。

新年のごあいさつ



対馬市議会議長

作元義文



新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、お健やかに希望に満ちた新春をご家族お揃いでお迎えになられたことと心からお慶び申し上げます。年頭にあたり市議会を代表して、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、日ごろから市政及び議会活動に對しまして、深いご理解と温かいご支援を賜り心から厚くお礼を申し上げます。

さて、今日の国、地方を問わず、極めて厳しい財政状況の中にあつて、真の地方分権改革の実現とともに、私たち議会も、より安全で

安心して暮らせる住みよい町づくりと、地域の活性化のために今後とも議員一同、研究、検討を重ね、議会から提案・提言を行つていきたいと考えております。

私たち議会は、年に4回の定例会及び臨時会や3つの常任委員会、さらに2つの特別委員会を設置し、提案された議案について、慎重に審査を進め、市長部局と一体となつて対馬の活性化のために議論をし活動を続けているところであります。また3つの常任委員会

も各地域の実情をできるだけ多く理解をし、市政に反映すべく自ら足を運んで所管事務調査を精力的に実施

し、それぞれの重要課題に積極的に取り組んでおります。

また、国県道路整備促進特別委員会では、国道、県道の調査を行い、改良を進めていく順序等を検討し、国や県にも、市長に同行し陳情活動を続けております。その成果として、地域の後押しもいただきながら、佐須坂トンネルと唐崎岬線の卯麦・佐保間のトンネルが予算化され、着工の準備中であります。

さらに、国境離島活性化対策特別委員会においても、防人の島新法の制定や離島振興法の見直し案、国境防衛に対する自衛隊増強等に

ついて、市長に同行し国や県に要望活動を行つております。尖閣諸島や北朝鮮問題等により、国も国境や外海離島の重要性、また振興に目を向け始めたのではないかと感じております。また、県も第1回の国境離島・外洋離島フォーラムを上対馬総合センターで開催をして、県内外から約600人の参加をいただき、離島の重要性を再認識していただいたところであります。

今後さらに、市長部局と協議を行い、対馬市議会として創意工夫を重ねながら、依然として厳しい島全体の状況であります。少しでも改善でき、より豊かな住みよい古里づくりを目指して、市民皆様方のご期待に応えられるように決意を新たにしております。どうか本年も相変わらぬご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

結びに皆様のご健勝とご繁栄を心からお祈りいたしまして、年頭のごあいさついたします。